



UD TRUCKS

アクスルシャフトに過大な負荷を掛けない運転について

発進時

車両発進時には
適正なギア段
を選択!

- 高い発進段で無理に発進するとアクスルシャフトに過大な負荷が掛かり破損する原因になります。
 - 積載状態(空車/積車)や道路条件(平坦路、登坂路)及びトレーラ連結状態(連結時/非連結時)によっては、適正なギア段が異なる場合があります。
- ※適正なギア段に関しては取扱説明書をご覧ください。



変速時

適正な回転数で
クラッチを
つなぐ!

- 高い回転数域でのクラッチ操作は、アクスルシャフトに過大な負荷が掛かるため破損の原因になります。
- クラッチをつなぐ時には、適正な回転数で行ってください。
- 急激にクラッチをつなぐことは避けてください。



坂道発進

パーキングブレーキ
やEHS/HSA
の活用!

- 登坂路での発進では、車両が後退しやすく急なクラッチ操作になりやすいため、パーキングブレーキやEHS/HSA(坂道発進補助装置)を使用してスムーズな発進に心がけてください。
- 登坂路等で車両を一時停止させたい時は、必ずブレーキペダル(主ブレーキ)で車両保持してください。【アクセルペダルでの車両保持は絶対にしないでください】
- アクセルペダル操作では常に適切なギア段を選択し、クラッチに負荷を掛けないようにしてください。

※HSA(坂道発進補助装置)の作動例



- EBSと連動して登坂発進の際に主ブレーキで車両を保持します。
- ブレーキペダルから足を離すと約1秒程度で主ブレーキが解除されます。
- 勾配を検知しているため、平坦地では作動しません。



⚠ 注意

約1秒経過後ブレーキが解除され、車輪が動き出しますので注意して下さい。

積載量

過積載の危険性
積載制限を遵守

- 車両の操作方法に加えて過積載も車両に過大な負荷を掛ける大きな要因です。
- 積み過ぎは車両に過度の負担がかかり、それによって本来破損しないような箇所が壊れて走行不能になったり、正常な走行ができず重大事故につながる可能性が高くなります。(参照: 積載量による制動力の違いは右図の通りです。)
- 積載量の制限は、車両によって異なりますので、正しく理解し、適正な積載量での運行をお願いします。

※過積載は道路交通法第57条、58条で禁止されてます。

■定量積載10トン車の制動距離

積載量	速度	
	40Km/h	80Km/h
10トン(定積)	13.3m	50.3m
14トン(140%)	14.6m	58.9m
18トン(180%)	16.1m	70.3m

(全日本トラック協会「大型トラックの安全運行に関する調査研究報告書」より)